

+1 (プラスワン)

No.1

〒658-0047 神戸市東灘区御影3-7-11
日本キリスト教団 東神戸教会牧師
2015年1月発行



「ヨノトーン」の良さ

牧師 横山順一

キリスト新聞のクリスマス・新年合併号には、毎年、キリスト教各教派と諸団体からの、新年への意見表明が掲載される。

今年も全部で六十五の教派と団体からの記事を読んだ。そこにはキャッチコピーがそれぞれ添えられている。

知名度的な紹介で申し訳ないが、例えば「日本聖公会」のそれは、「いつしよに歩こう」。日本バプテスト同盟は「協力伝道の原点に還つて」。日本イエス・キリスト教団は「共に福音にあずかるため」。日本キリスト教会は「この時代の課題を見据えながら」。カトリック教会が「新しさに生かされて」。在日大韓基督教会が「憎しみを越え、和解をめざして」などなどである。(詳細は紙面をご覧ください) ついでに諸団体のを紹介すると、日本キリスト教海外医療会が「ともに生きる世界を願って」。日本のちの電話連盟が「よき隣人とし

て」。日本キリスト教婦人矯風会が「弱くされた人と共にあゆむ」。日本YMCA同盟が「ユースに愛と力を」などとなっている。どの教派・団体も、他者やこの時代を意識したものが多し。私たちの働きに、それは欠かせない視点だからだろう。

然るに、わが日本基督教団のそれは「伝道に燃える教団」である。どの教派も団体も、何をやるにせよ、それぞれ伝道(キリストの教え)を無視した歩みは考えられない。

日本基督教団だけが、わざわざ「伝道」を標榜せねばならない理由があるのだろうか。「伝道する教団の建設」は、「信仰の一致のもとに伝道の推進」とのサブテーマをつけた、昨秋の第三十九回教団総会の主題だった。

他教派や団体が、現在の様々な課題を心に刻んで、それに取り組み姿勢を鮮明に意見表明している中で、ひとり日本基督教団のみが、「信仰と教会の一致」のもとで日本の伝道に取り組みと書かれている。

何かずれている。としか思えない。このズレは一体何なのか。

教団新報のクリスマス号には、巻末に三十九回総会で選ばれた教職常議員のプロフィールが載っていた。

十四名の常議員に三役合わせて十七名の出身神学校は、何と十六名がT神大だった。

年末行われた衆議院総選挙。小選挙区制度による結果は、概ね二割の支持に過ぎない自民党が圧勝した。この制度のおかしさを思わずにはおれない。

それと同様に、常議員選挙方法は全数連記である。票まともをすれば一方の側の者ばかりが選出される仕組みだ。これまた、おかしいやり方ではないか。

安倍政権は、信任を得たとして「強い日本を創る」と謳っている。多様な意見を聞こうとはしない。

多様性を軽んじ、同じ意見の持ち主だけが一致しても、強くはならない。教団が似ているのが悲しい。

これで良いか。問いながらの二〇一五年を迎える。単色じゃなく、色んな色を塗ろうよ。